

11

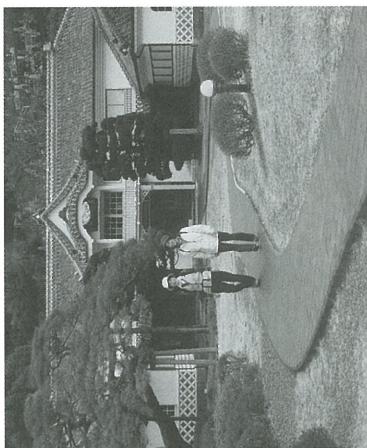
# 長者ヶ原遊歩道

(家族向・一般向)

雲見の高通山と並んで、ヤマツツジの群生地として脚光を浴びているのが、松崎町と南伊豆町の境に広がる長者ヶ原である。1万2000株が群生していて、5月初旬から中旬には草原一面が、まるで赤いじゅうたんを敷いたようになる。

松崎から八木山行きのバスで9分、重文・岩科学校で下車。本数が少ないので松崎町内から山麓遊歩道を2・5km(約50分)ほど歩いてもよい。

重要文化財岩科学校は明治13年、小学校の校舎として建築され、近年まで子供達の勉学の場として利用されてきた。広さ441m<sup>2</sup>、木造一部2階

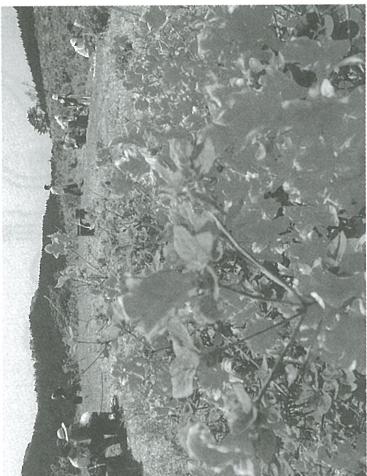


▲重要文化財岩科学校

大峠から右へ少し上がれば長者ヶ原の広い力や原に出る。富士山の好展望地で、このあたりから南斜面にかけては伊豆で最大のヤマツツジの群生地である。時間に余裕があれば、南斜面の遊歩道をぐるっと巡ってヤマツツジを見てこよう。

長者ヶ原の力や原を真つすぐ進み、マツや桜などの灌木を通ると一つのピークに上り着く。ぐつと左に折れて広い急な斜面を下る。緩やかになると小峠の十字路に出る。石仏が2体あり、かなりのお賽錢があがつているところをみると、今でも訪れる人が多いらしい。この道も、かつては松崎と南伊豆を結ぶ生活道であつた証しだろう。

左に行くとヤマツツジの群生地から島見峠のバス停へ通じる林道、右は山口の集落へ下る山道。車を岩科



▲長者ヶ原のヤマツツジ

建ての、なまこ壁を生かした美しい建物で、社寺風の建築様式をもち、しかも一部ペランダ、丸窓など洋風を取り入れた全国でも珍しい建物である。

内部には、当時の授業風景を忍ばせる校長先生や生徒の人形が再現されている。

また、玄関正面の題額は、時の太政大臣(現在の総理大臣)・三条実美の書とされている。2階の欄間には墨絵で知られた伊豆の長八の描いた「千羽鶴」が舞っている。

岩科川にかかる中野橋を渡り、川沿いに左へ曲がり、少し先で右折する。数軒の民家を過ぎると清眼山真福寺。石段を上ると小さな御堂があり、中に薬師如来が祀られているといふ。

切通しの入口の右手に石の祠があり、2体の石仏が安置されている。地元でイボ地蔵と呼ばれている地蔵さんで、イボの数だけ泥ダンゴを作つて奉納すると御利益があるといふ。

右側の石仏の下をよく見ると、泥ダンゴが三つほどあつたので、今でも頼りに訪れる人がいるとも見える。

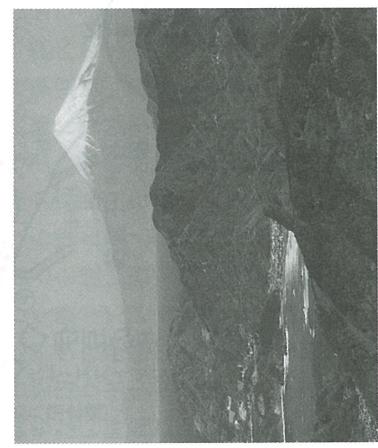
簡易舗装された切通しを抜けると

オオシマザクラの桜葉畑。5月上旬頃から葉の摘み取りが始まり大きなタルに塩漬けされ、6ヶ月後にアメ色に漬かつた桜葉を全国へ向けて出荷。松崎町は桜葉の生産日本一で、全国の70%を出荷している。

小さな沢に沿つて上り、右に炭焼き小屋を見送り簡易舗装が切れるとスギ・ヒノキの林の中の石畳の道となる。この道はかつて松崎と南伊豆を結ぶ生活道であつた。

右手に洞窟を見送り急な切通しを抜けると指川峠である。かつて道は三方に分かれていたが、左手の道はヤブとなつていて、右へぐつと曲がると右の一段高いところに山の神を祀る祠がある。正面には大きな石碑があり、左のヤブの中には石の道標がある。

ここからシイ・カシの灌木の繁る緩やかな上りとなる。しばらく行く



▲暗沢山からの展望

と道は、再び簡易舗装された広い道となり、峰集落から上がりてくる車道の三差路がある。峰分岐で、近くに自然食の食事処「玄葉庵」がある。

この先で右に山口へ下る道を見送り、このまま車道を真っすぐ進む。竹やぶを抜けると清水畾と呼ばれる水場の先で灌木となり、再び石畳の山道となる。うつそうとしたスギ・ヒノキの林がつづき、長い林を抜け前がパツと開けると大峠である。石の祠に石仏が1体ボタンとあるだけの小さな峠である。

一等三角点と大きなバラボラアンテナのある暗沢山へは左に上がった先にあるので往復してこよう。伊豆半島に三つある一等三角点の内の一つで、西伊豆の海岸線と富士山の眺めがよい所である。ちなみに後の二つは天城山の万三郎岳と達磨山の山頂にある。



▲長者ヶ原

学校に置いてきた時は、この道を右へ山口へ下るとよい。(後述)

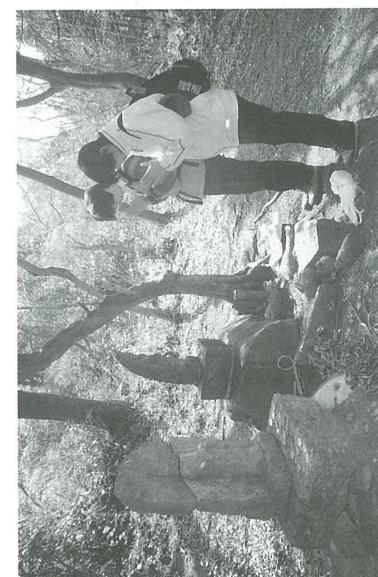
雲見へは真っ直ぐ進んですぐに左に曲がり尾根道の町境を行く。すぐ右手の灌木から、石部の棚田に下る遊歩道がある。

この先から南伊豆町と松崎町との町境を緩やかに下つて行く。左側(南伊豆町)のスギ・ヒノキの林が伐採されていて、そのための林道がいくつか町界まで延びている。伐採されたため南方面の展望が良く、暗沢山のバラボラアンテナや南伊豆の海、伊豆七島の新島・式根島・神津島などが望める。

灌木が繁る尾根道の右手(松崎町)は、ほとんど展望がないが、時折、木立の間から西伊豆方面や富士山が見える。

しばらく進みウバメガシの林を抜け尾根から右に外れると急斜面の下り。下り切つて左に回り込むと舗装道路にボンと出る。ここに登山口の標柱がある。右へ少し歩けば国道136号に出る。目の前が松崎町の焼却場。ここが高通山の登山口。

国道を右に5分も歩けば富士見農園のバス停がある。松崎行き・下田駅行きとも便が悪い。松崎へ行くなら旧道を歩いて雲見入谷まで下ると便が少し多い。いずれにしてもバスの便は事前に調べておこう。



▲2体の石仏がある小峠

## 小峠から山口・岩科へ下る

小峠の十字路から北へ灌木の中を下る。谷筋のやや左斜面を下る感じで、時折、緩く右左と小さく蛇行しているが一本道。アオキ、ユズリハ、ヤマザクラ、オオシマザクラが目立つ灌木の中で、展望はないが小鳥の声が多く聞かれる。

スギ・ヒノキの林や竹やぶを抜けて下る。峠から30分ほどで明るい雑木林になる。ここに道標がある。岩科(山口)900mとなる。

この先で小さな十字路を横断してなおも下る。かつての生活道たつた名残りの石段が見られる。

左に水音がするようになると、左

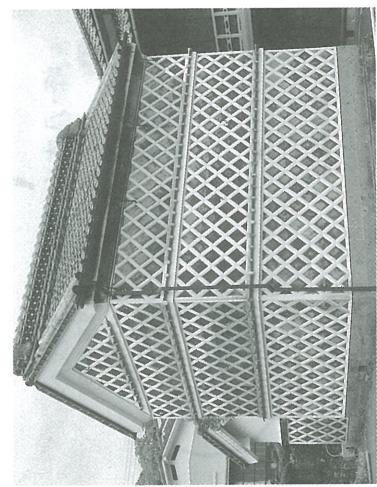
にわさび田の跡らしい石垣の積まれた段々畑が続く。

民家の屋根が見えると舗装道路の三差路に出る。小峠から約1時間。

長者ヶ原250mの道標がある。三差路を右へ下るとすぐに滝見橋。右手に名前がない滝がある。舗装道路をくねくねと下り、山口の集落に入るとなまこ壁の民家が目立つ。

このまま真っすぐ下れば山口のバス停。巨木に興味ある人は、途中から左手の高台にある国柱命神社(神明宮)に寄つて行こう。目通り7m90cm、高さ25mのクスノキの巨木や町指定天然記念物のクスノキ3本、目通り3m80cm、高さ25mの大イチヨウなどがある。

重要文化財岩科学校へ戻るなら山口橋を渡つて道なりに行けばよい。



▲山口のなまこ壁の民家